所属・氏名(薬学部 薬学科 氏名:兒玉 安史)

171114	CA (楽字部 楽字科	Д/Д	:兄玉 女史)	T	T
著	書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
Me of lo de ev in co es ve	学術論文) talloestrogenic effects cadmium are absent in ong-term estrogen- prived MCF-7 cells: dence for the evolvement of enstitutively activated etrogen receptor α and ery low expression of G etein-coupled estrogen eceptor 1.	共著	2020 年 2 月	Toxicology Letters, Vol. 319, pp. 22-30	カドミウムのエストロゲン様作用は、エストロゲン欠乏状態で長期間培養した MCF-7 細胞 (ER 陽性乳がん細胞) においては見られず、一方、LTED 細胞(ER 陽性再発乳がんモデル細胞)では G タンパク質共役型エストロゲン受容体 1 (GPER1) を僅かに発現することを明らかにした。 Masayo Hirao-Suzuki, Shuso Takeda, Yasushi Kodama, Masufumi Takiguchi, Akihisa Toda, Masahiro Ohara 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
Hy si in de sp su te gl	学術論文) perglycemia multaneously induces mitial caries evelopment and enhances contaneous occlusal erface wear in molar eth related to parotid and disorder in loxan-induced diabetic ets. 『査読 有』	共著	2017年1月	Journal of Toxicologic Pathology, Vol. 30, pp. 47-55	アロキサン糖尿病ラットにおいて、高血糖は 初期齲蝕の形成と自然発生的な臼歯磨耗を引 き起こし、進行させることを明らかにした。ま た、本糖尿病モデルでは高血糖により生じる 耳下腺機能障害は齲蝕と臼歯磨耗の原因とし て関わることが示唆された。 Taiki Nishimoto, Yasushi Kodama*, Tetsuro Matsuura, Kiyokazu Ozaki, Yoshihiko Taniguchi 担当部分の概要:研究全般
Ac in de as	学術論文) Pute alloxan toxicity Putitially causes Regeneration of thick Recending limbs of Henle Rethout involving GLUT2 『査読 有』	共著	2016 年 7 月	Journal of Toxicologic Pathology, Vol. 30(1), pp. 7-13,	アロキサンはラットに糖尿病を誘発する前に 急性尿細管間質性腎炎を引き起こすが、その 発症機序は不明である。そこで、アロキサン投 与後の急性腎毒性の形態学的特徴を評価した 結果、アロキサンはまずヘンレループ上行脚 の変性を引き起こし、GLUT2を伴わずに尿細管 上皮におけるミトコンドリアと細胞の損傷を 誘導することが示唆された。 Yui Terayama, Yasushi Kodama, Tetsuro Matsuura, Kiyokazu Ozaki 担当部分の概要:実験動物の飼育管理、薬物投 与、病理解剖、肉眼的解析を実施
Ac ca tu ne	学術論文) cute alloxan toxicity cuses granulomatous cloulointerstitial cphritis with severe neralization 『査読 有』	共著	2016年5月	Journal of Toxicologic Pathology Vol. 29(4), pp. 261-264, The Japanese Society of Toxicologic Pathology.	アロキサン糖尿病ラットにおいて、これまでに報告されていない重度の尿細管間質の石灰化を伴う肉芽腫性尿細管間質性腎炎がアロキサン投与後1週で観察された。これらの知見より、アロキサンの腎毒性は腎尿細管腔から尿細管間質への鉱化によって誘発されることが示唆された。Lianshan Zhang, Yui Terayama, Yasushi Kodama, Taiki Nishimoto, Kiyokazu Ozaki 担当部分の概要:実験動物の飼育管理、薬物投与、病理解剖、組織学的解析を実施